

I 自己評価

1 学校教育目標	『知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する』
2 現状の分析	○ 生活や学習等の取り組みに改善が見られつつある。 ○ あいさつをしたり、時間を守ったりできる生徒が増えてきた。 ● 基礎学力が定着していない生徒がおり、義務教育段階の学習内容の復習を指導する必要がある。 ● 基本的な生活習慣や規範意識が十分に確立していない生徒がいる。 ● 進路意識が希薄で、自分自身の良さや課題を客観的に捉えることや社会に出て働くための人間関係づくりが苦手な生徒がいる。
3 学校の抱える課題	1 基礎学力の定着 2 基本的な生活習慣の確立 3 進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成
4 今年度の具体的な重点目標	1 学習指導・教科指導の充実 2 生活指導・特別活動指導の充実 3 キャリア教育の充実とコミュニケーション能力の育成

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判断基準	8 取組状況・実践内容評価項目 の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合評価
学習指導・教科指導の充実	① 生徒の授業への取り組みの意欲を高めるために「評価の可視化」と「加点法」による評価を実施する。	学校評価アンケートで確認(70%以上)	学校評価(生徒・保護者) 69%	B	○ 意欲的に授業に取り組む生徒が増え、聞く姿勢や授業規律の確立にもつながった。 ▲ 今後も基礎的な学習内容が十分に定着し、より高次の学習内容を展開するようにしたい。	B
	② 生徒の授業理解のために「ユニバーサルデザイン」を意識した授業、個別指導、少人数指導を展開する。	学校評価アンケートで確認(70%以上)	学校評価(生徒・保護者) 73%	A		
	③ 授業改善の推進のために、教職員相互の授業参観を実施する。	授業公開週間に1人2授業を参観年2回実施	1人2授業以上参観達成年2回の実施ができた	A		
生活指導・特別活動指導の充実	① 基本的な生活習慣(あいさつ・時間を守る等)を身につけさせるために、毎朝の校門指導を実施する。	生活状況調査「あいさつ、遅刻」の項目で確認(70%以上)	生活状況調査 71%	A	○ あいさつをする生徒や授業に遅れないよう努力する生徒、ボランティア活動に参加する生徒が増えている。 ▲ 遅刻数をさらに減らしたい。 ▲ マナーを守る指導を強化する。	B
	② 全職員共通理解のもと、「身なり指導・マナー指導」をおこなう。	学校評価アンケートで確認(70%以上)	学校評価(生徒・保護者) 63%	B		
	③ 部活動・ボランティア活動を活性化し、活気と思いやりの心を育てる。	ボランティア参加延べ生徒数(300人以上)	ボランティア参加延べ生徒数 291人	B		
キャリア教育の充実とコミュニケーション能力の育成	① 「自己探求(総合的な学習の時間)」と「LHR」の時間を活用し職業や勤労に対する意識を高める。	学校評価アンケートで確認(70%以上)	学校評価(生徒・保護者) 65%	B	○ 進路意識を持つ生徒が少しずつ増えてきている。 ○ 演劇ワークショップで見せる生徒の姿が活動的になった。 ▲ 基礎学力の向上が必要不可欠であることを理解させる。	B
	② 地域との連携による外部人材の活用により、進路目標実現に向けてのスキルの習得を促す。	活用回数(回数5回)	活用回数 7回	A		
	③ 演劇ワークショップ等により、コミュニケーション能力を育成し望ましい人間関係を構築する。	講師及び見学者への聴取	仲間と共感することで自分を成長させることができた	A		

II 学校関係者評価

実施年月日 平成26年2月14日

1 落ち着いた態度で授業にのぞむ生徒が多くなってきている。「評価の可視化」「加点法による評価」等による丁寧な指導方法が効果を上げている。	12 来年度に向けての改善方策案
2 就職希望の生徒が増えてきているようだが、就職も学力検査等がある。基礎学力の向上は欠かせない。また、社会で自立するためにはコミュニケーション能力も必要である。基礎学力の向上とコミュニケーション能力を身につける指導を今後もぜひ続けてほしい。	1 生徒の学習意欲や授業規律に改善がみられてきた。今後も、日常的に基礎学力を確実に定着させる取り組みを推進し、授業内容の向上をめざす。
3 思いやりの心を育てるためにも、ボランティア活動の推進と部活動の活性化に取り組んでほしい。	2 「あいさつ」「時間を守る」「身だしなみ」「マナーを守る」等の基本的な生活習慣を全員の生徒ができるように指導を徹底する。朝の校門指導を継続する。
	3 コミュニケーション能力の向上を図る指導を推進する。